

飯野中の先輩の言葉から

昨日の放課後、令和元年度の卒業生2名が学校に来て、校長室でしばらくお話をしていただきました。卒業から丸1年、二人ともマスク着用で、一人は髪型も変わって制服のイメージも違っていたため、マスクを外してはじめて「おー、〇〇先輩だったのか、久しぶり！」という感じでした。

卒業生二人からは、飯野中学校はとても居心地がよくて素敵な学校だった思い出話や、高校では飯野中から来た同級生が少なくて、学校生活ではめったに

会わないことなど、とても楽しそうに、生き生きと話してくれました。

高校生活1年目で、市内外の様々な学校出身の友達や親友ができたこと、自分の興味が持てる教科の学習領域ができて、もっと専門的な勉強をしてみたいと考えていることなど、わずか1年の間に、すっかり大人びた話の内容だなと感じきりでした。

話の中で、二人の今後の夢・目標を聞いたところ、こんなことを話していました。

A先輩：私は、もともと看護師を目指しているので看護科にいきました。

学校では、飯野中の生徒とはなかなか会えませんが、とても気の合う友達ができました。3年間の高校課程を卒業したら専攻課程へ進学します。国家試験もあるので、今から勉強しないとせっかく専攻科を出てもだめなので必死です。患者さんのことを大切にできる看護師さんを目指しています。



B先輩：私の学科は、他の科より授業時数も多く、一日のスケジュールが違って部活動もできないし、休み中も補講があって勉強・勉強の毎日です。でも、とても充実しています。私は、高校に行ってから理系の教科、特に化学分野に興味をもったのでもっといろんなことを勉強して、新しい素材や物質を創り出して、人の役に立つような仕事をしたいと考えています。なので、〇〇大学か〇〇大学の理工系の学科を目指しています。将来は旭化成とかの企業に就職したいと思っています。



と、二人とも、この1年間で自分の将来進むべき道をしっかりと形にし、目標を見据え、毎日の高校生活に前向きに取り組んでいました。

二人とも、自分の夢を話す時には目がキラキラして、マスクで見えない表情まで生き生きとしていることが伝わってきました。

話の中で、飯野中でよかったことはどんなことだった？と聞いたら、「前向きに何でもやれたこと、みんなが明るく笑顔で毎日過ごすことが当たり前だったことが一番よかったと思います。」「特に桜祭は忘れないですね。」と話していました。

1年生は中学校に入学して丸1年。臨時休業のため2ヶ月ほどスタートが遅れましたが、1年間の中学校生活に充実感を感じることができていでしょうか。毎時間、担当の先生が替わることで、志保井が丘ノートで自分の生活・学習をマネジメントして取り組むこと、教科によっては教科書が何種類もあったり、厚くなったり勉強が小学校のときよりも難しくなったりと大変なことがあると思いますが、自分自身の精一杯の取組で、諦めず、粘り強く、部活動に、勉強に前向きに取り組めたいでしょうか。

2年生はあっという間に中学校生活の折り返しを過ぎ、残り1年です。昨日学校に来た先輩のように、自分の目標、夢を具体的にイメージできるよう残りの1年を精一杯前向きに、それぞれ全集中で充実させてください。先日の立志式では、一人一人が志を宣言し、自分を成長させることをみんなで確認しましたので、あと1年の大きな成長を期待しています。

今年度1年間を振り返って自分の成長をしっかりと確認し、令和3年度に向けて新たな目標を設定し、今年度を締めくくってください。